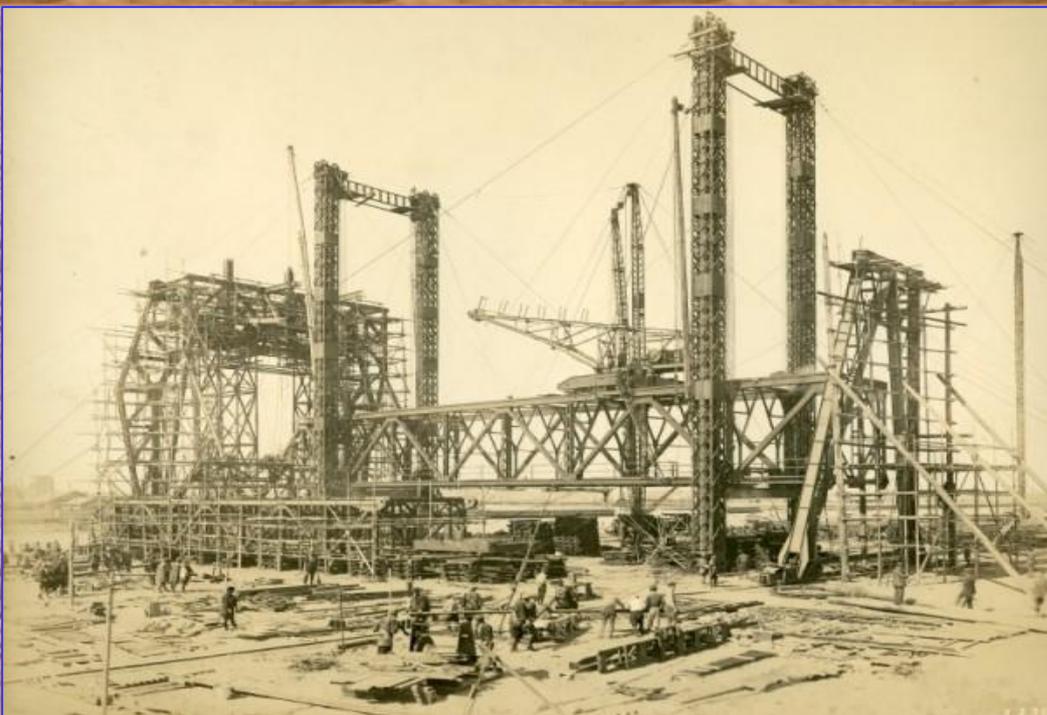


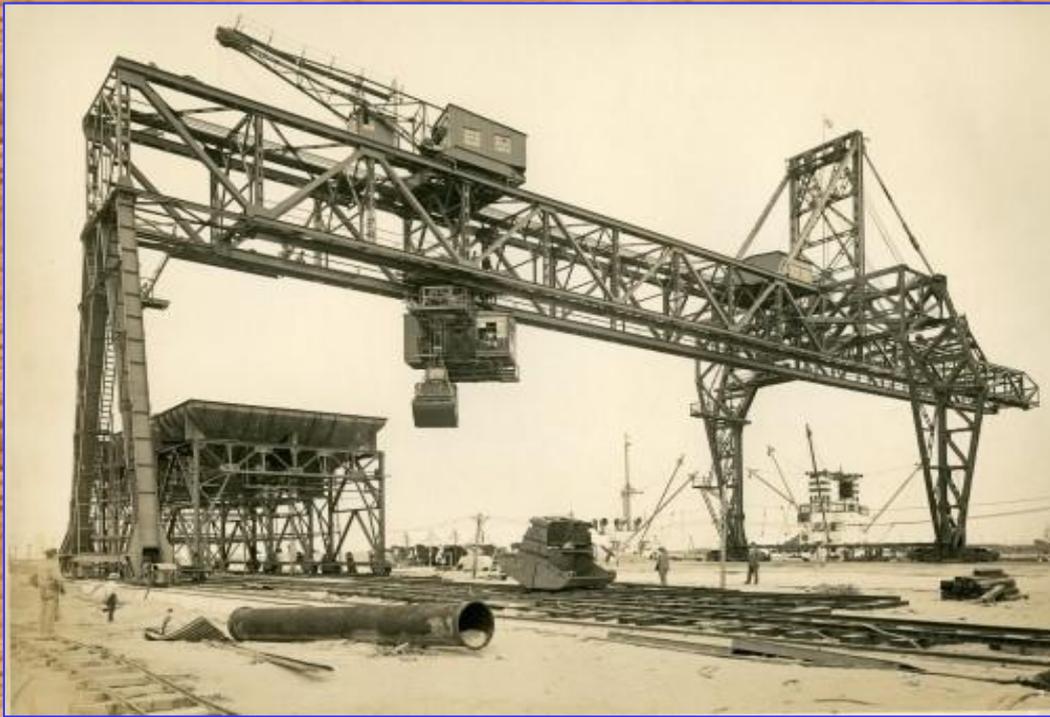
昭和初期の写真②『鶴見埠頭ブリッジ』

紙焼きの大判写真が4枚、現存しています。

撮影日は、1928年2月から6月頃です。

工事内容の詳細は不明ですが、三井物産から受注した工事で、時代背景から考えると、東京火力発電所(1984年に廃止されたのちの鶴見火力発電所)を建設するための施設工事ではないかと思われます。





芝浦工場から横浜市鶴見区の現地に鉄骨部材を台船で運び、台船から鶴見埠頭までは舢舨で運んだのでしょうか。

写真は残っているものの、ほとんどの記録は残っていません。
鉄骨工事については、1945年(昭和20年)以前は1千トン以下の受注工事を「工事経歴書」に掲載していませんでした。
過去、4回発行した「東京鐵骨」の社史にも、この工事については一切触れていません。
この時期は火力発電所の上屋工事を多く手がけていますので、もしかしたら同様の工事だったかもしれませんね。